

寺
ごよみ

十月

一日 お講 板屋

二日 野あがり名人会 今年は津軽三味線の高橋竹山の独演会。午後七時半開演。

一〇日 大屋根修復完成予定

一六日 お講 三日市

ご遷仏 大屋根も仕上がって、ご本尊が空華殿から本堂へ移されます。

善巧寺報恩講

一九日 建夜 午後一時

初夜 午後七時

二〇日 晨朝 午前七時

日中 午前十時

満座 午後一時

説教は本山布教使 浦田秀栄師

二九日 東狐・新浜・報恩講

三〇日 板屋・報恩講

寺報

善 巧

発行

〒938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山497
白雪山 善 巧 寺
☎宇奈月 0765(65)0055

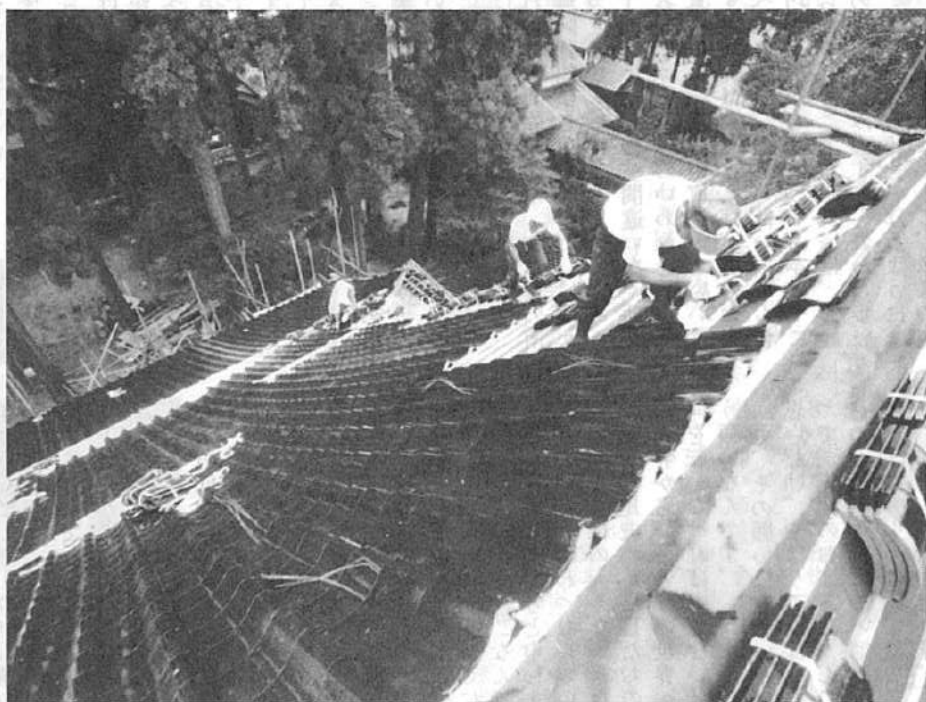
報恩講勤修

布教

本願寺
布教使

浦田秀栄師

十月十九日 建夜(後一時) 初夜(後七時)
十月二十日 日中(前十時) 満座(後一時)



善巧寺大屋根修復完成間近か

いささかの悲志届けて蟬時雨汗の掌に札を数えて差出しぬ夏空に墨痕さやか悲志札秋立ちぬ竣工間近か善巧寺今、此の原稿を書いているのが九月二十一日です。善巧寺修復の趣意書を記して、皆様方に悲志を御願ひして以来、今日迄、皆様方の浄財が、毎日のように届けられて参ります。引きも切らず届けられると言っても過言ではありません。「今日で二百になった」「もう三百になった」と、寄進者の数が、どんどん増加していて、本当に嬉しい思いがして居ります。

実は、此の仕事に着手する六月の初めには、一番心にかかったのは、お金のことでした。多額の費用のかかる大事業を、しかも、短日月の間に竣工をこなすにはならないので、皆様方にも多大の御迷惑をかけるのが目に見えているわけです。必ずしも余裕あるとはいえない家計の中から、必ずしも少額とは言えぬ悲志を下さるのには、大変なことだったと思います。

寺のことを気づかって下さる厚いお志なくては出来ぬことです。雨もりの内陣をこらんなった方、解体して腐った木材に御気付きになった方、又は、寺報を読んで此のままに放置しては置けぬとお感

浄財に感謝

じになった方、全門徒の方々が、本堂を本来の姿にしないでほしいと言おう真宗門徒の厚い志に、期せずして一致協力して下さったものと思います。

皆様方の一口一口のお金こそが、文字通りの浄財です。清らかなお金なのです。此の浄財に感謝すると共に、今後、何時までも、清らかな皆様方の御意志に添うよう、万全の努力を惜しまないことが、私達に課せられた使命だと思ひます。

善巧寺修復は、少数の選ばれた人々によってなされるのでは決してありません。ピラミッドの底辺の大多数の皆様方による一つ一つの厚い志の集合によってこそなされるのであって、このことこそが、同行同朋の真宗教団の歩むべき姿であります。

解体作業から構築作業、瓦の敷設作業。完成に至る諸作業は、順調に進んで参りました。従事者の働きも、皆様方の厚い志を反映していささかの誤差もなく進捗して参りました。来るべき竣工の喜びの日も近づいて参りました。浄財に感謝すると共に、今後の善巧寺の繁昌を期したいと思ひます。

雪山 俊之



講 録

凡 夫 直 入

行信教校々長 利井興弘師

御開山聖人から受けたご恩は、
一体何であらうか、ということをし
うかがわせていただく、三代寛
如上人、八代蓮如上人が声をそろ
えて、「凡夫直入の信心を決定なさ
れた」といわれる。

そこで、凡夫というのはいかに
なるものかといえば、畏怖心の去ら
ぬもの、おそれおのく気持がな
くならぬものであります。生きて
ゆく上にはおそれはある。他人に
悪口いわれることもおそれになる。
そのうちにいのちなくなるおそれ
も出てくる。そこで最後には、悪
いところへ行くんじゃないかろうか
と、こういう気持がわいてくるの
が凡夫というものであります。

その凡夫が直ちに入る一ただち
に間違ひなく浄土に生まれること
ができる、とおっしゃる。このい
われはどうかといえば、如来のお
さとりは光明無量の智慧の姿であ
りまして、この智慧の目でわたし
たちをご覧あそばすとき、あわれ
なる凡夫の私は六道をめぐって、
この世終われどもいいところへゆ

けるわけじゃあない。因果の道理
からいっても、やはり迷いの世界
へゆかねばならない。そこで、そ
うした迷いの凡夫を、なんとして
でも救わねばならぬと、智慧のむ
ずかしさを慈悲のやさしさにかえ
てはたらい下さるのが救いの親
さま、仏様であります。

つまり、仏様がわたしのために
働いて下さる。わたしのお浄土ま
いりのタネをお慈悲の六字の名号
に仕上げてあえて下さる。こと
ばかえれば、わたしの法蔵菩薩、
わたしの阿弥陀如来、わたしの南
無阿弥陀仏と、全部わたしにかか
って下さるわけでありす。

そこで、この、間違ひなく助か
るといふところのいわれを、浄土
真宗では「横超の直道」といいま
す。これは、たとえば、このお寺
へ入るのに、表からはいつでも善
巧寺、横からはいつでも本堂へこ
られる。そこで浄土真宗は、お経
の中をみてみますと、表から歩い
てコツコツ階段をのぼるようにな
るお浄土ではなくて、仏様の南

無阿弥陀仏に乗せられて南無阿弥
陀仏があなたの仏タネとなつて、
そこで、心配なし、案ずることは
いらん、必ず仏となれるところの
いわれがでさう上がつてあるとい
うのが南無阿弥陀仏です。

さて、そこで、このお六字が、
あなたをどうするのかといえは、
寿命無量、光明無量、限りない
のちと、限りない智慧をあなたに
もたらして下さる。で、そのタネは
といえは、南無阿弥陀仏しか他
にはないんだというのが仏様のお心
なんです。

では、そういうお心が、どうい
うところから出てくるかといえは
「願」ねがいです。この願とい
うものは、どういふものかとい
うと、方向を転ずるもの、であり
ます。わかりやすくいうならば、お
ばあちゃんや孫連れて外へ出た。
踏切りで、しゃ断機が降りてきた
ところへ、孫がヒョイとつかまっ
て、足をぶらぶらさせているとな
ると、どうですか。危ない！ と
おばあちゃん思いますよね。な
んとかしなければとつぎに思
うでしょう。それが「願」なんです。

だから本願の名号と申しますけ
れども、どう味わったらいかと
いへば、仏様の大きな大きな願
い、つまり、凡夫のわたしたちの迷
いの世界から、さとり世界へと方
向を転じなければ、危ない！とい
う願いなんです。

で、その願いは、願いだだけでは
思ひだけ。やはりこれは、力とな
って、先程のおばあちゃんでも、
孫のところへ飛んでいって、抱き
かかえて、引っぱってくるでしょ
う。これを「願力」という。

願力というのはこういうもので
して、仏様のお心は、迷いの世界
へやっつてはならんという願いの全
体が、南無阿弥陀仏という力とな
って流れているのであります。

そこでね、これは大事なこと
だけれども、わたしたちは昔から
仏様は、「いよいよ」と呼んでおら
れるという話は聞いたけれどもど
うですか、呼んで下さった声をす
なおにハイと聞くことできたかな。
ご開山のお聖教を読ませていた
だと、もちろん「招く」とは書
いてある。しかし、その次に「引
く」と書いておられる。つまり、
おいでおいでと招いても、顔をそ
むけているものはこつちを向きは
しませんから、そこで仏様は近寄
って、招くんじゃなくて引っぱ
るとおっしゃつてある。

仏様からいへば引っぱる、われ
われからいへば引っぱられる、そ
のつながりはどこにあるのかとい
へば、それはあなたがたとなえ
るお念仏となつていふのでありま
す。いいですか。お念仏は、あなた
をお浄土へ引っぱる力なんですよ。

「仏衆生の口を口として念仏を
広めたまう」——こういう言葉
がございしますが、称える口はあな
たの口、その口が仏の口となつて
おるといふ、つまり、称えるま
まが、称えさずにはおかぬとい
う仏の口から流れてきておるおい
われだといったかねばならないの
であります。

で、これがわかるならば、われ
われが階段上がるようにまいる世
界じゃなくて「広大の異門」つまり
南無阿弥陀仏に乗せられてまいる

寺
こよみ

十一月

空 華 忌

一日 お講・愛本新

四日 お初夜 午後七時半

五日 晨 朝 午前七時

日 中 午前十時

満 座 午後一時

記念講話は行信教校校長 利井
興弘先生。必ずお参りを。

七日 上野・報恩講

一四日 柳沢・田家・窪野・報恩講

一五日 中陣・報恩講

一六日 お講・浦山新

二〇日 出・報恩講

二一日 魚津・報恩講

二二日 中新・報恩講

二六日 析沢・報恩講

二七日 浦山新・報恩講

二八日 石田・報恩講

三〇日 石田・報恩講

んです。ちがった門と書いてある。
だから因果の道理からいへば、私
が願を起し行をつんで信をえて
から上がるのが道であります。が、
お念仏の道はどうかといへば、仏
様の世界へ歩む力があるかといえ
ば目もなく、足もない。そのわた
しの目となり、足となつて下さる
のが仏様であります。だから案ず
ることはいらぬ、仏は必ず救うと
いう、言葉だけではなくて、それ
が実際にあなたの上に動いて、称
えさせて、聞かせて、安心させて
下さるのが南無阿弥陀仏の働きな
のであります。

富山

昭和59年7月4日

(水曜日)

兄と弟

兄の俊隆が、よそからお菓子をもらうて帰つて来て、弟の教隆に分けてやっている。なかなか、かしこい。けど、どうして分けてやるのか。聞いてみたら――

「だって教隆、欲しそうな顔して見てるんだもん」

かわいそうだから、分けて
やったという。あまりかしこ
くない。

もちろん、恵まれない子に愛の手を——ということも大事である。しかし、これは、仏さんの教えではない。

弟の教隆が、今度は近くの店で何かを買ってきた。そして兄の俊隆に半分食べるといっている。うそわしき兄弟愛。と云うので、どうして兄ちゃんに半分やるんだ？

「だって、こないだもらったし……」

ちゃんと分けておかないと
今度またもらえないかもしれ
ない、というのである。やっ
たりとったりの貸し借り勘定
で、仏さんは笑っておられる
じやない。

仏教の世界は、こんなじやない。恵んでやるでもなけ

真信一心

兄弟は、兄一、弟二で二人といつてはなく、兄がいて、弟となり、弟がいて兄と呼ばれるのだから、半分と半分で二つ。

親子は、子が生まれてはじめて親といわれるのだから、これも半分と半分で二つ。

夫婦も、夫がいて妻と呼ば

行ったときのこと。
子供が五十人、バスはマイ
クロ。で、ピストン運転にな
った。チューリップ畑で何万
個の花を摘んで、ぽつぽつ
お昼、ということになった。
ポツリときそつな空なので、
まず先鋒隊をバスに乗せて寺
へ帰った。

「いえ、かみ声をあげ、食前のあいさつをしてはじまった。」
ところが、その中で、また一人、二年生のキヨカズくんが井当たべていない。
となりの俊隆が聞いた。
「おい、井当どこだ」
「持った」
「持ったのなら一緒に食べ

バスの中でキヨカズが……と話してくれたのが俊隆である。
「キヨカズって、いいやつだなあ」
と、感心している。
お菓子の分け合いっこも、
分数の計算もヘチマもない。
これである。これが仏さん
の世界である。

仏さんの世界

半分と半分で一つ



スリランカで小学校一年生の算数の教科書を見せてもらったら、さすが、仏教国、早々と分数の計算をやっている。

二分の一プラス 二分の
一イコール一

これは大変な概念であつて
日本語に直せば

半分と半分で一つ
と一つとだ。一つと一つ

れ、妻がいるから夫として扱われるのである。

だから、家族だって、七人家族なら、七分の二ずつが七

つあつまって、一つの家族を
成り立たせているわけだ。

そう、町だって、県だって、
国だって、世界だって、宇宙

だって、相寄り相まって共に
生じている。それが、仏さん

の教えであり、世界である。
キヨカズくん

こないだ、花まつりのため
のチューリップを摘みに、日

昭学校の子供を迎れて入善へ

寺の広間で、みんなが一斉に「みほとけとみなさまの……と食前のあいさつをして、お井当をひらいた。

ところが、中に一人、一年生のコトミちゃんだけ、食べしていない。どうしたの？

「おべんと、バスのなか」

そのバスはあとの半分を迎えに出たあどだ。しまったなあ、しんぼつしるよ。

一方、後発隊のバスの中では、もう昼も過ぎだし、待てない、というので、みんな車中で食べる事になった。ワア

「わいぢ」
「ママ」
とキヨカズは首をふる。
「ママ」
「あゝ、妹の二三井当持
ころゑ。ぽん、妹と一緒に食
べな」
とキヨカズは我慢した、と
いつてゐる。
バスが寺に着いて、真つ先
に降りてきたのはキヨカズで
ある。広間で待っていたコト
シと手を合せて、こたぎ
ますをしている。
それを見ながら実はいま、

残念ながら、私たちはキヨカズにはなかなか会えない。しかし、俊隆にはなれると思う。すばらしいものを見て、すばらしいと感動することはできと思う。

花まつりの日、みんなの前で、私は二人をほめた。ほめながら、胸がつまってしまった。

(本願寺派誓巧寺若院、雪ん子劇団主宰、四十三歳、宇奈月町浦山)

(本願寺派誓巧寺若院、雪
元子劇団主宰、四十三歳、宇
永月町浦山)

全門信徒の懇念の結晶！



6月16日 原寸とり



7月2日 向拝タル木取り替え



7月12日 木口板取り替え



7月17日 材木づくり盛ん



8月7日 棟おこし



善巧寺本堂大修復懇志進納者御芳名

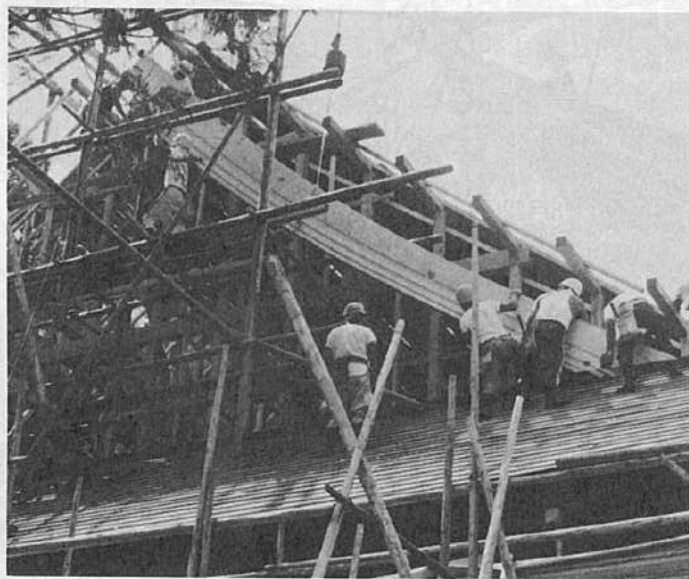
3・10	雪害で本堂漏水
3・11	太子会 現場視察
3・20	第一回臨時総代会
4・3	聞名寺 養照寺等視察 専門委員会
4・6	仏閣設計、大野和悦氏 現場調査
4・7	工匠 酒井仁義氏 現場 調査
4・15	第二回臨時総代会
4・22	第三回臨時総代会
4・23	境内トガの木伐採
4・24	専門委員会 杉枝払い
4・27	専門委員会 境内整地
5・7	修復工事現場説明
5・10	第四回臨時総代会
5・14	入札 大藪建築落札
5・16	第五回臨時総代会
	趣意書、説明書配布
5・25	音沢地区説明会
6・1	起工・遷仏式
6・2	本堂内引越し
6・3	栃沢地区説明会
6・4	囲足場組み、仏具引越
6・6	東狐地区説明会
6・7	石田地区説明会
6・8	屋根解体はじまる
6・15	解体完了 若院、法輪寺 負傷
6・16	原寸とり
6・17	仮屋根トタンふき始まる
6・20	床、基礎調整

善巧寺大屋根大修復

十月上旬完成 十六日ご遷仏

御礼言上

善巧寺の大屋根大修復事業は、いよいよ十月十日に完成、十六日には遷仏式が行われる運びとなりました。雪害事故発生以来六月、浄財を募り、工を起こしてから四月―この大事業がとにかく



く順調に進められ、完成を迎えることを、門信徒の皆さんにご報告できることは本当にうれしいことです。百年に一度、あるかないかというこの大事業が、このように見事に仕上がりましたのは、仏祖の御加護と、深い信仰に潤った、土徳の底力のたまものでありましょう。この度の修復の話が始まった当初は、突然のことでもあり、門徒の方々の中にも、戸惑いやご不審の点も多くあったようですが、と

にかく前向きに、いろいろご心配下され、多くの困難をおしてご協力いただけたことには、ただただ感謝のほかありません。

また、総代の方々の熱心なお世話によって、門徒の方は申すにおよばず、広く有縁の人々や、遠隔の地からも浄財が結集され、当初の予想をはるかに超える早さで、いま目標額に達しようとしていることは、なんともお礼の申しようもないほどです。おかげさまで、心配されていた借入金もほとんどなく、大屋根修復は細部に至るまで、遺漏なく進めることができました。

見せた土徳の底力！

今回の事業で、最も心配されておりました募財につきましては、会計の中山慶太郎さんの報告によりますと、九月二十八日現在の果計では、志納、三百九十七口、総額、三千九百六十八万円にのぼっております。

これは全門徒の八割の方にご協力をいただいたことになり、当初の予想をはるかに上回り、建設委員会一同、感激の極みとよろこんでおります。計画では工事費のうちおよそ三

工事につきましては、わたしたちの寺をわたしたちの手で―という心のままに、門徒の業者をお願いしました。六月一日の起工式以来、足場組み、木づくり、上棟そして瓦ふきと、誠心誠意尽して下さり、損得抜きで「おらの寺を末代に残さねば」と、木材や瓦の吟味はいうにおよばず、クギ一本、木口板一枚にいたるまでに気を配って下さり、その上、多くの同業の方々の協力もいただいで、善巧寺の大屋根の偉容は、これまでの莊嚴をはるかに超えたものとなりました。

設計監督の大野和悦氏、正棟梁の大藪守さんほか、工事に関係して下さった、大森力さん、平田正行さん、谷十三男さん、岡田洋さん、開場義雄さん、松平政義さん、向田次雄さん、蓮池康則さん、岡田俊夫さん、中瀬久秀さん、大田藤一さん、岡田清次郎さん、大田富盛さん、丸田和重さん、越後松雄さん、仮設解体の吉野雄二さん、小坂勝治さん、新田富義さんら吉野工業の皆さん、本堂床調整の清水弘喜さん、クレーン建方の南保哲夫さん、材木の船屋幸吉さん、瓦の松原正行さん、松嶋貞夫さん、泉繁成さん、水野勝利さん、金物の中川久義さん、左官の河村慶重さん、河村四郎さん、塗装の平野哲さん、大田弘之さん、電気の中不三男さん、中勢蔵さん、防火工事の中瀬菊次郎さん、消火設備の川口弘行さん―本堂にありがとうございました。皆さんのお名前前は銘板に記載し末永く寺にかかげさせていただきます。

千万円を農協から借り入れて、これを三年がかりで返済しなければならぬという、最悪の事態を考えておりましたが、四月の寺報、六月の趣意書、説明書、さらに七月の寺報や、地区説明会等で、意のあるところを汲んで下さり、七月の祠堂経をピークに連日一日として欠かさず、門信徒の方々が足を運んで下さりまして、八月十九日の総代会までに三百五十二口、三千六百三十六万円の懇志が集まり、この時点で借金の心配はなくなり

ました。そして、現在目標額四千五百万円に刻々と近づいております。念仏の殿堂を末代に残さねばという全門信徒の方々の熱い心が、こうして実を結ぼうとしているわけですが、未志納の方につきましては、十九、二十日の寺の報恩講、さらには門徒報恩講まわりの折にご相談させていただきましますので、それぞれが、ただだけに、よろしくお願い申し上げます。なお、お問い合わせがございましたら、何なりと、寺までご一報下さいませ。

来春 よろこびの落慶法要

善巧寺の夏の総代会は、八月十九日に開かれ、大屋根修復工事の進捗状況と、募財関係の経過報告を聞き、今後の事業計画について話し合いました。

それによると、工事については、①工程表通り、順調に進められているため、十月上旬に本工事は完成する。②解体後に判明した内部構造の老朽化については、付帯工事費の予算内でおさめることができる。③今後の雪害対策については万全を期す。—ということである。

れを了承。

次に、募財関係では、①八月十八日現在で志納者数が三五五名（九月二十八日現在では三九七名）、懇志総額が三、六三三万円（九月二十日現在、三、九六八万円）にのぼる。②このため当初計画していた借入金ほとんど手をつけることなく即刻返済することができた。③したがって、今回の大事業についての募財関係については、未志納分の見込みを考えれば、ほぼ目標額に達するものとみられる。—

ということでありました。

このあと、質疑が交わされ、工事については、手ぬかりなきよう。そして募財に関しては未志納者については、説明の行き届いていない地区もあるので、報恩講まわりの際にご協力を願うようのご指摘がありました。

と、その金利の五百万円がほとんど手つかずで残るのではないかと、いうことに問題がしばられ、そのプラス分（見込み）の使途について話し合われました。

その結果、じつは今回の事業に關しては、とにかく寺の屋根を修復するという一点にしばって進められており、これまで、完成後の落慶法要などについては考える余地がなかったが、全門信徒の積極的な協力によって、ようやく、今後の見通しが明るくなったため、結局、当初の予算のままで春には落慶法要をとめることができる可能性が出てきました。

九月二十一日 金曜日 晴のち曇

宇奈月温泉「延楽」にて目覚む。昨夜、入善ロータリークラブ 観月例会に招待を受け、黒部クラブ側三名と、金沢から来会された直前ガバナリーの四名が、宿泊することになった次第。

旅館の朝食、例の如し。部屋から、下の溪流が眺められる。昔に比べると水量の減少が目立つ。音沢に発電所が出来、上流にダムが敷設されると、更に水が減って、黒部峡谷の景観も損われることになるらしい。

女中さんの話では、宇奈月の景気は、上々らしい。日本も、レジャー産業益々繁昌の時代とのこと。景気がいいのか悪いのか、私なん

かには全く分らない。

会員の前会長の車に便乗して九時帰院。早速法衣に着替えて、板屋の葬式に四名で出掛ける。

院号玉心院。法名順天。八十六才の老翁である。

戦前戦後にかけて善巧寺総代を勤められた仏で、花輪も多く、参列者満堂の盛儀である。故人は気骨ある人物で、戦前は、樺太運出掛けて事業を興したこともある。郷里では、役場に勤めたり、山葵の栽培に手をつけたり内水面漁業の世話をしたりで、多芸多能の人だった。令



住職日記

父君に代って寺もお世話になっている。

式終って、十二時帰院。爽やかな秋空も午後になると急に雲が出て来る。

寺の仕事場に出る。今日は、下り棟の工事で、大工さん

二名、瓦屋さん二名で、仕事に精を出して居られる。工事も順調に進捗して九分通りは終わった模様。

建築に關しては素人の私だが、六月の工事着手からずっと工程の始終を見ていると、少しは、建築用語も覚えて、関心が湧いて来る。日本古来の寺院建築の様式美は、世界に誇るものを持っているのではないだろうか。「懸魚」「火燈口」など、言葉から受ける印象も如何にも趣きがある。

「鬼瓦」は、福井県鯖江で焼かれていたそうで近く、到着する由孫たちは、運動会の練習に精出している。

断腸花その文字のごと淋しかり窓下の秋海棠の数増しぬ

寺 十二月

- 一日 お講・下立愛本
- 四日 愛本新・報恩講
- 五日 中ノ口・報恩講
- 六日 下村・大橋・報恩講
- 一日 下立愛本・報恩講
- 一日 赤田・内山・報恩講
- 一日 お講・浦山
- 一日 音沢・報恩講
- 三〇日 日曜学校もちつき大会
- 三一日 除夜の鐘 午前零時より

初まいるししょう。

にぎやかこども盆踊り

8月15日

開催を危ぶまれていた八月十五日の浦山こども盆踊り大会は、工事関係者のご厚意で、すっかり境内を整備して下さり、今年もにぎやかにすることができました。

善巧寺の日曜学校の子供たちは工事のために、境内で遊べないので、ずいぶんおち込んでいたのですが、この日ばかりは解禁とあって、大よろこび。しんらん音頭や法輪音頭、ソーラン節にサンサン音頭、それに今年の目玉、エリマ



キトカケ音頭を、ハッピーやユカタ姿で元氣いっぱい踊りました。

主催の夢を語る会のおじさんたちや、同校OB、婦人会の方たちも例年より多めに夜店の材料を用意しましたが、満員の盛況で、たちまち売り切れでした。

「遠くから帰ってくる孫が、この盆踊りをたのしみにしています。うれしいことです」と、見物のおばあちゃんもニッコリでありました。

お盆の法座ひらく

八月十六日、寺でお盆の法座がひらかれました。「盆まいるのあいさつだけではさみしい」との門徒の方のご意見で、ずっと以前にあったお盆の法座を再開したもので、午前中、仮本堂でおつとめと住職、若院の法話がありました。

この盆の法座はこれから末永く寺の行事に組み入れますので、どうぞみなさん来年もお参り下さい。

十一月四日、五日 空華忌

講話 行信教校長 利井興弘師

明教院僧侶法師のお祥月の法座です。四日は夜七時半よりお初夜のお座、五日は晨朝(七時)、日中(十時)、満座(二時)の三座。お泊りの用意あり。お誘い合わせ、お参り下さい。

印度聖地の菩提樹育てて下さい



インドはブタガヤの、おしゃかさまがこの木の下でおさとりをひらかれたという、その菩提樹のタネをまいたところ、芽が出て葉を広げスクスク育っています。

さて、冬を越してくれるかどうかはわかりませんが、とにかく、百株ほどありますので、おしゃかさまの徳をしのんで育ててみようという方は、どうぞ、寺参りの帰りにお持ち下さい。

善巧寺の常例行事

お日曜日	お月曜日	お火曜日	お水曜日	お木曜日	お金曜日	お土曜日	お日曜日
お経の会	お経の会	お経の会	お経の会	お経の会	お経の会	お経の会	お経の会
毎月 第一・第三土曜日	毎月 第一・第三土曜日	毎月 第一・第三土曜日	毎月 第一・第三土曜日	毎月 第一・第三土曜日	毎月 第一・第三土曜日	毎月 第一・第三土曜日	毎月 第一・第三土曜日

野あがの名人会

竹山

定額三味線 高橋 竹山

と き '84年 10月2日(火) 午後7時30分開演

と ころ 浦山 善巧寺 TEL (0765) 65-0055

★名人かつての門はけに門って お代はご存知の通り 一枚りよとご用意を

主催 宇奈月夢を語る会

告知板

☆ お焼香 お忘れではないと思いますが、ご当流では、一礼して一回つまんで(いただかず)に「くべるだけ。あとは合掌、お念仏、礼拝、一礼しておわりです。

一枚、一枚、本堂の大屋根に葺かれてゆく瓦を見上げながら、「あー ようこそようこそ」と手を合わせていらっしゃる。そのおばあちゃんのおそばで、「ほんと、ようこそようこそ、ですね」

「あつた、ほんとに、どうなることやらと心配で心配で、涙流したことも何度かありました」

「そうでしたか。こっちは心配で頭の毛が抜けたりして…」

「その涙もうれし涙にかわったし…ホッ、若ハンの頭の毛もちよつと生えてきたんじゃないか」

笑いながら、また、それもこれも、本堂にようこそようこそ…と、大屋根を仰ぐ今日この頃です。

三法要につぐ大工事、度重なる難題を、門徒の方々が丸と丸となつて乗り越えて下さって、つくづく門徒の寺、善巧寺の底力を見せつけられた思いがします。

念仏の心を子や孫に…わたしたちは、身をもって浄土真宗のスローガンを具現したのではないのでしょうか。



合掌